

## 教員おすすめ図書コーナー推薦書

教 員 氏 名	
宇田 和子 先生	おすすめメッセージ
<p>① 図書名：「当たり前」をひっくり返す：バザーリア・ニリエ・フレイレが奏でた「革命」</p>	<p>病や障害の診断が、それを付与された者にとっていかに重い呪縛となるかを描いている。呪縛に向きあい、改革を試みた3人の知識人たちを、筆者は「実践の楽観主義」という一本の線で繋いでみせた。この楽観主義は、私がこれまでに出会った優れた理論家たちの姿勢そのものである。2018年刊。</p>
<p>著 者：竹端 寛</p> <p>出版社：現代書館                      ISBN： <u>978-4-7684-3569-4</u></p>	
<p>② 図書名：診断の社会学：「論争中の病」を患うということ</p>	<p>医学的に未解明な病を患う者は、病名を得るのに苦労する。診断を得た後も、周囲の理解を得られずに病名が無効化されることがある。本書は、その経験の困難さを「生物学的シティズンシップ」の概念から分析している。なにより「肉の政治」、「肉の苦しみ」なる概念に衝撃を受けた。身体でもなく肉である。社会学はあまりにも肉体を置き去りにしてきたのかもしれない。2021年刊。</p>
<p>著 者：野島 那津子</p> <p>出版社：慶應義塾大学出版会              ISBN: <u>978-4-7664-2726-4</u></p>	
<p>③ 図書名：こちらあみ子</p>	<p>あみ子は家でも学校でも地域でも空気が読めない。皆に白い目で見られ村八分にされても気づかない。逸脱とはそういうものだ。しかし、この小説は「気づかない当人」の視点から逸脱と排除を描いている。なぜそんなことができたのか不思議だ。同時収録の短編も面白い。2011年刊。今年映画になるらしい。</p>
<p>著 者：今村夏子</p> <p>出版社：筑摩書房                      ISBN： <u>978-4480804303</u></p>	